

感謝表現にみる発想法の特徴

－日本語と他の言語の表現を対照比較して－

浮田三郎

Characteristics in Expressions of Gratitude

－ A Contrastive Analysis of Expressions of Gratitude
in Japanese and Several Languages －

Saburo UKIDA

The aim of this paper is to clarify characteristics of expressions of gratitude in daily conversation (mainly in Japanese), by contrastive analysis in Japanese, modern Greek, English, Portuguese, French and Chinese.

In this analysis I have pointed out the basic structure of “arigato (gozaimasu)”, which is not so obvious to foreign students and even to many Japanese. This seems to be one of the characteristics of Japanese expressions.

This contrastive analysis has clarified the similar structure in modern Greek, English, French and Chinese but not in Japanese, that is the way to express directly the feeling of gratitude in consideration of structure of expression. The basic structures of most common expressions of gratitude are not very clear in Japanese, Portuguese and French.

はじめに

日常の挨拶表現などの慣用表現の中には、日常、それらがどのような表現構造であるのか、あるいはどのような発想法によってそのような表現が行われているのかには分からない表現も多い。また、普段は気にも留めないでいることが多い。そのような表現では本来の構文性が失われ、間投詞的あるいは感嘆詞的な慣用表現になっているものが多いようである。例えば、「ありがとう」とか「すみません」とか「御苦労様」とか「さようなら」など枚挙に暇が無いほどであり、また、これらの表現の中には興味深い表現が多い。

時に、留学生に、例えば、「有難う」がどうして“I thank you”と言う意味になるのかなどと尋ねられて、しばし考えてしまうこともある。もちろん、様々な言語間で、ある表現に対して構文的にも意味的にも、パラレルな訳が出来ない場合は多くあるので、この日本語と英語の表現が相当異なっているのも不思議はないが、日本語の表現を吟味し、また他のいくつかの言語の表現と対照比較してみると、それらの表現の意味や表現構造の違いに

は興味ある特徴が見られる。

ところで、感謝の気持ちを表明する表現は、色々な視点から考えると、色々な表現を指摘することもできるが (cf 藤原, 1944、甲斐, 1944、三宅, 1944)、本稿では、日常の会話で最も一般的に使用される「ありがとう (ございます)」という感謝の表現に焦点を当てて検討し、さらに他のいくつかの言語の語用論的にこれに対応する日常よく使われる感謝の表現と対照比較することにより、各々の言語 (主に日本語) の表現構造の特徴やその背景にある各々の民族と日本人の発想法の特徴を考察してみる。

I. 「ありがとう」の意味

まず、「ありがとう」の意味的記述を調べてみる。いくつかの辞書にあたってみると、「ありがとう」は、アリガタク (有難い) の音便形で、下の「ございます」あるいは「存じます」の省略された形と見られ、感謝の意をあらわす挨拶語ということになる (『広辞苑』、『新明解国語辞典』、等参照)。ちなみに、「ありがとう」は、『広辞苑』では挨拶語として記載されているが、『新明解国語辞典』には感嘆詞として、「感謝・お礼の気持ちを表す言葉」として記載されている。

歴史的には、この表現が感謝の固定的表現となったのは中世以降のことである (cf 藤原, 1944、松浦, 1983) が、上記の『広辞苑』などの記述を見て、「ありがとう」の表現の元の「有難い」の元の意味を考えると、興味深い表現であることが分かる。即ち、相手の行為や好意などに対して「滅多に無いこと」と言って最高の評価をしようとした表現が話者の気持ちを表すものとなったのであろう。感謝を表す挨拶言葉になった経緯も、「有難し、有難い」の元の意味が生かされているものと考えられる。

即ち、元の形容詞「有難し」の「滅多に無い」といった意味から「1、他からは受けることの出来ない恩恵・考慮・配慮に接して、身の幸せをしみじみと感ずる様子だ。2、かけがえの無い経験をして、心から良かったと思う気持ちだ。3、物事が自分に取って都合に運ばれ、うれしい気持ちだ。」(『広辞苑』) などの感謝の気持ちを表す形容詞になったと考えられる。この「有難い」気持ちを相手に伝えようとする表現法が「有難うく有難うございますく有難くあります」である。

例えば、「お心使い有難うございます」といった表現は、その構文的な面から考えて、構文的に完全な文を再構してみると、「私にとって貴方のお心使いが有難くございます／あります」のようになると考えられ、「貴方の心使いは、滅多に無いようなことであり、身の幸せをしみじみと感ず、感謝に値する」という風に相手の行為を最大限に評価することにより、話者の感謝の気持ちを表明する挨拶表現あるいは間投詞的表現になったと考えられる。

ところで、元の表現の意味から考えると、非常に強い感謝の気持ちを表していると考えられるが、日本人は、現代の言語行為においては、それほど意識しないでこの表現をよく

使用しているようである。この点から見る限りにおいては、日本人は誇張表現を好む傾向にあると言える。ただ、三宅、1994によるとアメリカ人もイギリス人も“Thank you.”という表現はよく使うようである。ちなみに、筆者の経験から言っても、日本人はお詫びの言葉「すみません」や「ごめんなさい」なども非常によく使用するが、欧米の人々はあまり言わないようである（cf 西原，1994）。

お詫びの言葉に関しては、日本人の方がよく使うということは、一般に日本人があまり感情を表に出さないとされていることと一見矛盾するようであるが、相手に対して恩義などをより敏感に感じて、それに対して素早く言語行為で対応している日本人的思考の傾向が窺える（cf 西原，1994）。また、これは、日本人の強い社会的相互関係を保とうとする心理的傾向によるものと考えられる（cf 熊取谷，1988&1994）。ただ、実際には、日本人は、必ずしもそれほど感情を込めてこれらの感情や詫びの言葉を発していないというようなことも日本人の傾向であろう。

II. 「ありがとう」の構文

次に、上でも少し述べたが、感謝の表現「ありがとう」を構文的な面から検討してみよう。先に述べたように、「ありがとう」が完全に間投詞的になっているとしても、誰が誰あるいは何に対して感謝しているのか、内容的な面からも、元になる構文を考えてみることができるであろう。

さて、「ありがとう」は、「ありがたくある／あります」、「ありがたくござる／ございます」、の「ある／あります」、「ござる／ございます」が省略されたものと考えられる場合と「ありがたく存ずる／思う」の「存ずる／思う」が省略されたものだと考えられる場合があるが、後者の場合は前者の場合の類推により形成されたもので二次的なものと考えられる。

1. 「有難くある」と「ありがとう」の構文

したがって、まず、「有難くある」の構文を考えてみよう。どんな省略が考えられるか、主語は何で、形容詞「有難く」は何を修飾しているのであろうか。

では、「有難くある」の主語は何であろうか。「何かが」有難くあるはずである。まず、『新明解国語辞典』や、『広辞苑』に掲載されている形容詞「有難い」の例文を拾って見ると、

- (1) 雨が降ってくれたことはありがたい。
- (2) ありがたくない。お客様だ。
- (3) ありがたい、助かった。
- (4) ありがたい教え
- (5) ありがたい仏様（以上『新明解国語辞典』）
- (6) 思いがけない御隠居さまのありがたいおぼしめし

(7) 君の心づかいがありがたい。

(8) ありがたいことに雨は降らなかった。(以上『広辞苑』)

のような例文を見ることができ、これらの用例において、形容詞「ありがたい」と他の文構成要素との関係を検討すると、以下のようになる。

(1) は、「雨が降ってくれたことが(主部)－ありがたい(述部)」。

(2) は、「ありがたくない(限定修飾語)－お客様(被修飾語)」のような名詞句であるが、この主述関係は、「お客様が(主部)－ありがたくない(述部)」と考えられる。

(3) の主述関係は、「助かったことが(主部)－ありがたい(述部)」。

(4) の場合は、(2) と、同様に、「ありがたい(限定修飾語)－教え(被修飾語)」で、主述関係は、「教えが(主部)－ありがたい(述部)」と考えられ、(5)(6) の場合も、構文的には同様である。

(7) は、「君の心づかいが(主部)－ありがたい(述部)」。

(8) の場合は、「ありがたいことに(文修飾の副助詞)－雨は降らなかった(事実の陳述)」であるが、「ありがたい」こととの関係を見ると、「雨が降らなかったことが(主部)－ありがたい(述部)」と解釈することができる。

このような、形容詞「ありがたい」の構文を念頭に於いて、「ありがとう」の構文を検討してみよう。例えば、

(9) りんごをありがとう。

のような文を想定すると、

a {*りんごが} ありがとう。

b りんごを、{*私が} ありがとう。

c りんごを(くれて)、{*私が} ありがとう。

d ({?貴方が}) りんごを(くれて)、{*私が} ありがとう。

e {貴方がりんごをくれたことが} (私にとって) ありがたくある。

のように、考えてみるができる。「ありがとう」という感情を表明しているのは話者であるが、「ありがとう＝ありがたく」の主語(部)は、私(話者)ではない。また、「ありがたい」という感情の対象は、「りんご」そのものではなく、「貴方がりんごをくれたこと」であり、構文的には「そのこと(行為)」が「ありがたくある」の主語である。

(10) ご招待、ありがとうございます。

a ご招待、{*私が} ありがとうございます。

b * {ご招待が} ありがとうございます。

c ? {ご招待が} ありがたくあります。

d ? {ご招待が} (私にとって) ありがたくございます。

(10) の場合は、招待という相手の行為が感謝の対象になっている点で、(9) と同様である。また、b と c の違いは、音便形になっているかそうでないかの違いである。音便形

の「ありがとう」あるいは「ありがとうございます」は、既に、間投詞的あるいは感嘆詞的な表現として使用されているので、bはいかにも奇妙である。cdの場合も普通は行われない表現であるが、構文的には「{ご招待が} ありがたい／ありがたくある」で、主部一述部の関係で成り立つ。

次の場合、慣用的な「…くれて、……。」の表現形式で、副詞「本当に」などを伴った場合であるが、これも、上の場合とほぼ同様に考えることができるであろう。

(11) 招待してくださって、本当にありがとうございます。

a 招待してくださって、{*私が} 本当にありがとうございます。

b * {招待してくださったことが}、本当にありがとうございます。

c ? {招待してくださったことが}、(私にとって)本当にありがたくございます。

d ? 招待してくださって、{その気持ち}が 本当にありがたくございます。

次の場合は、どうであろうか。

(12) 昨日はどうもありがとうございました。

a 昨日は {*私が} どうもありがとうございました。

b * 昨日は {貴方の行為が} どうもありがとうございました。

c ? 昨日は {貴方の行為が} どうもありがたくありました。

d ? 昨日は {貴方の行為が} (私にとって) どうもありがたくありました。

e 昨日は (ご馳走してくださって) どうもありがとうございました。

「昨日は」の後に何か省略されているが、これは当事者の間では明白なことである。また、「ありがとうございました」と過去の表現になっているが、これも(11)などと同様に考えることができる。次の場合も、これとほぼ同様である。

(13) どうもありがとうございました。

a {*私が} どうもありがとうございました。

b * {(過去の) 貴方の行為が} どうもありがとうございました。

c ? {(過去の) 貴方の行為が} どうもありがたくありました。

d ? {(過去の) 貴方の行為が} (私にとって) どうもありがたくありました。

その外にも、次のような会話によく遭遇する。

(14) A : 「ありがとう。」

B : 「こちらこそ (ありがとう)。」

この場合、AB 共にお互いに好ましい結果に終わるような何等かの行為をしたのであろう。それに対して、AB 共に感謝の意を述べている。この場合も、

(14) a A : 「{*私が} ありがとう。」

B : 「{*こちらこそ} (ありがとう)。」

のように、「*私がありがとう」、「*こちらこそ (ありがとう)」とはならない。

(15) A : 「優勝おめでとうございます。」

B：「ありがとうございます。」

この場合、Aの好意的な言動に対して感謝の言葉を述べているので、構文的には、「{Aの好意的な言動が} ありがたくある」のである。

以上のように、いずれの場合も、「ありがとう」「ありがとうございます」「ありがとうごさいました」の構文上の主語となるべきものは「私」即ち話者では無いことが分かる。また、「ありがとう」の表現は、元になる構文は考えられるもののほぼ間投詞的あるいは感嘆詞的な挨拶表現になってしまったと考えられ、この表現に格助詞「が」の付いた主部が現れることは難しいと言える。

それらに対して、次のような表現も考えてみよう。

(16) これはありがたい。

a {これが} ありがたい。

b これは、{*私が} ありがたい。

これは、「良かったと思う気持ち」あるいは誰かに「感謝したいという気持ち」を表明しようとしたものであるが、必ずしも聞き手に対して発せられる表現ではない。基本的には、「あること（これ）がありがたいと陳述している」文である。

その外にも、

(17) 私は貴方に感謝します。

のような表現もいくつかあるが、普通の会話の中では一般的ではない。

2. 「有難く存ずる」の構文。

先にも述べたが、「ありがとう」が、「ありがたく存ずる／思う」の「存ずる／思う」が省略されたものだと考える場合も、「ありがとう」の表現は、1の場合と同様であるが、元になる構文は、1の場合とは明らかに異なる。例えば、(9)と同様、

(9) りんごをありがとう。

のような文を想定して、「存ずる／思う」の構文を考えてみると、

(18) a {*りんごが} ありがたく存じます。

b {私は} りんごをありがたく存じます。

c りんごを（くれて）、{私は} ありがたく存じます。

d ({貴方が}) りんごを（くれて）、{私は} ありがたく存じます。

e {私は} {貴方がりんごをくれたことが} ありがたく存じます。

のようになり、「存ずる」「思う」の主語は「私」（話者）であるが、「ありがたい」の主語は、1の場合と同様、「私」（話者）ではないことが分かる。即ち、「ありがたく」は、「私が存ずる／思う」という主節の下位に位置する補文の中に存在しているからである。同様に、次の例も参照したい。

(19) ご招待、ありがたく存じます。

- a ? ご招待、{私が} ありがたく存じます。
- b ? {私は} {ご招待が} ありがたく存じます。
- c {私は} {ご招待を} ありがたく存じます。
- d ? {私は} {ご招待が} (私にとって) ありがたく存じます。

(20) 招待してくださって、本当にありがとう存じます。

a 招待してくださって、{私は} 本当にありがとう存じます。

b ? {私は}、{招待してくださったことが} (私にとって) 本当にありがとう存じます。

c {私は}、{招待してくださったことを} 本当にありがたく存じます。

d ? 招待してくださって、{その気持ちが} 本当にありがたく存じます。

このように、「ありがたく存ずる／思う」の構文の方は、複文の構造であり、「ありがたくある」の構文とはレベルが異なっていることも分かる。(20) bなどに見られるように、「ありがとう存じます」は、「ありがとうございます」のように間投詞あるいは感嘆詞的な用法まで後退していないと言える。したがって、上の例文も生きてくるのであろう。

III. 他の言語の感謝の表現

ところで、他の言語の感謝の表現はどのようになっているであろうか。いくつかの言語の表現を日本語の表現と比べてみることにより、各々の言語の表現の特徴とその民族の特徴を考察してみよう。

いくつかの言語でよく使用されている感謝を表明する代表的な表現を挙げて、簡単にその表現構造と意味を検討してみよう。

1. 現代ギリシア語の場合

- (21) Efharisto. 「感謝します」(ありがとう)
- (22) Efharisto poli. 「大変感謝します」
- (23) Hilia eftaristo. 「沢山感謝します」
- (24) Se eftaristo. 「おまえに感謝します」
- (25) Sas eftaristo. 「貴方(がた)に感謝します」
- (26) Eftaristo to theo. 「神に感謝します」
- (27) Doxa to theo. (= Thank God.) 「神に栄光を」

現代ギリシア語では、(21)～(25)は、(24)の“Se eftaristo.”の変形である。即ち、“efharisto”「(私が)感謝する」という動詞を中心とした表現で、親しい間では(21)が最も一般的で、(22)(23)は、それに強意の副詞が付加された形で、(24)(25)は、弱形の人称代名詞、二人称、対格の単数形と複数形が付加された表現で、これらもよく使用される。語用論的にはこれらの表現が、日本語の「ありがとう(ございます)」に対応し

ている。二人称の複数形が使用されている(25)の表現は、丁寧な表現として繁用される。しかし、(26)と(27)の表現は、異なる。前者は、明らかに「私は神に感謝する」という表現であるし、後者は、「神に栄光を」という表現で、話者の感謝の気持ちを表そうとしている。

2. 英語の場合

(28) Thank you. 「貴方に感謝します」

(29) I thank you. 「貴方に感謝します」

(30) Thank you for your kind invitation. 「ご親切なお招き貴方に感謝します」

(31) Thanks. 「感謝」

(32) Thanks a lot. 「大変感謝」

(33) I appreciate your kindness. 「ご親切に感謝します」

(34) It's very kind of you to invite me. 「お招き頂いてご親切様」

(35) I'm much obliged to you. 「大変ありがとう」(喜ばされている(受動分詞))

英語のこれらの表現では、(28)～(30)は、三つ共、動詞“thank”「感謝する」を使用した表現で、(28)と(30)では、主語“I”が省略されていると理解される。(29)が構文としては完成されているが、この中で気軽に使用される表現は(28)であろう。

(31)(32)の表現も、親しい間で気軽に使用されるようである。これは、「感謝」という名詞を使用した表現で、前者とはやや異なるが、話者が誰誰に「感謝」を述べるあるいは感じるといった表現で、やはり積極的に感謝の気持ちを表明している。

(33)の表現形式は、I thank youの形式によく似ている。

(34)の形式は、客観的な表現と言えるであろう。「相手の行為が親切である」と評価する陳述を感謝の表明に置き換えていると言える。これは、日本語の「ありがとう」の表現構造とよく似ている。

(35)の表現では、“obliged”は基本的には、受動分詞で、「喜ばされている／ありがたがらされてる」といった意味で、また、この表現も、談話あるいは文脈の中から生まれた表現であると考えられるが、普段の感謝の表現としてはそれほどポピュラーだとは言えない。これに関しては、次のブラジル・ポルトガル語の表現と比べると興味深い。

3. ブラジル・ポルトガル語の場合

(36) Obrigado/a. 「ありがとう」

(37) Muito obrigado/a. 「大変ありがとう」

(38) Eu sou grato/a a voce. 「貴方に感謝している」

(39) Agradeço a atenção. 「ご親切に感謝します」(手紙の時)

ブラジル・ポルトガル語の表現の場合は、(36)の“Obrigado/a.”は、間投詞として扱

われている辞書もあるが、本来は受動分詞の形容詞で、したがって語尾は話者（即ち主語）の性に一致して変化する。この語の元々本来の意味は、「義務を負わされて」といった意味から（cf. IV）、上の英語の表現の際にも述べたように、談話あるいは文脈の中から生まれた感謝を表明する表現であると考えられる。この表現は、様々な場面で最もよく使用される最も一般的な感謝の表現である。

(37) は、これに強意の副詞が添加されたもので、これも繁用される。

(38) の場合は、“grato/a” は形容詞で「感謝している」といった表現になり、構文的には上記 (36) (37) の表現と同様と考えることができる。

(39) の場合、“agradecer” は「感謝する、お礼を述べる」といった動詞で、この表現は手紙などの書き言葉とか形式ばった表現の中で用いられる。

4. フランス語の場合

(40) Merci. 「感謝」

(41) Merci beaucoup. 「大変感謝」

(42) Je vous remercie de vos conseils. 「御忠告貴方に感謝します」

仏語の場合は、(40) (41) の名詞“merci”を用いる表現形式が最も一般的で、(40) は(41) に強意の副詞が添えられている。表現形式としては英語の“thanks”と同様に考えることができるが、この語は、既に感謝の表現として間投詞的に使用されている。

(42) のように、動詞“remercier”「感謝する」を使用した場合は、より丁寧な表現で、表現形式としては、英語の (29) の構造と同様に考えて良いであろう。

5. 中国語の場合

(43) (我) 謝謝 (你)。

(44) (我) 謝謝你的信。

(45) (我) 謝謝你来看我。

中国の表現の場合は、これら全て、英語の表現と構文的にも意味的にもほぼ同様に考えることができるが、人称代名詞の我や你是、普通省略される。(43) が最も一般的に使用される。

(46) 值得感謝。

(47) 对我的帮助是值得感謝的。

のような表現も見られる。

IV. 諸言語における感謝表現の構造と意味の類型

以上のように、各々の言語においても感謝を表明する表現はいくつか見られるが、ここでは、それらの中で最も代表的と思われる表現を取り出して、対照比較してみよう。

これらの表現を検討してみると、各々の表現の構造と意味がはっきりしているものと各々の表現の構造と意味がはっきりしなくなっているものもあるが、分析してみると、各々の表現の元になる構造や構文の主述関係は見つかる。そこで、当該の表現の構造と意味がはっきりしているものとはっきりしなくなっているものを分類し、また、表現の構文の主述関係によって分類してみよう。

1. 当該の構造と意味がはっきりしている表現

(1) 現ギ：(Sas) eftaristo. (動詞)

構造：(貴方に)－(私が)感謝する
(目的語)－(主語)他動詞

意味：私は(貴方に)感謝しています。

(2) 英語：Thank you. (動詞)

構造：(私が)感謝する－貴方に
(主語)－他動詞－目的語

意味：(私は)貴方に感謝しています。

(3) 中国：(我)謝謝(你)。(動詞)

構造：(私が)感謝する－(貴方に)
(主語)－他動詞－(目的語)

意味：(私は)(貴方)に感謝しています。

(4) 仏語：Merci. (名詞)

構造：(私が)－(表す)－感謝を－(貴方に)
(主語)－(他動詞)－目的語－(目的語)

意味：(私は)(貴方に)感謝の気持ちを(表します)。

ところで、フランス語の場合、“merci”の意味は、歴史的には変化していて、現代では“remerciement”「感謝」の意味で使用されておりはっきりしているが、元になる構文が少々はっきりしない。

2. 構造と意味がもはやはっきりしなくなっている表現

構造と意味がもはやはっきりしなくなっている表現には、次のような言語の表現がある。

(1) 日本語：ありがとう (形容詞)

構造：(貴方の行為が)(私にとって)－ありがたく(＝感謝すべき)－ある
(主語)(対象)－形容詞－自動詞

意味：(貴方の行為が)(私にとって)ありがたくある

(2) プ・ポ：Obrigado/a (受動分詞・形容詞)

構造：(私が)(いる)－義務を負わせられて－(貴方に感謝することを)(＝感謝

させられて)

(主語) (自動詞) - 他動詞・受動分詞 - (意味を担う節)

意味：(私は) (貴方に) 感謝する義務を負わされている。

3. 元になる構造や構文の主述関係

1) 構文の主語(話者)が感謝を示す述部の主体になる表現

上でも見たように、次の(1)～(3)の言語の表現は、話者たる構文の主語が誰々に「感謝する」という主述関係の明らかな表現で、主語の気持ちを直接的に表現している表現である。

(1) 現ギ：Sas efharisto. (動詞)

(2) 英語：Thank you. (動詞)

(3) 中国：(我) 謝謝(你)。 (動詞)

次のフランス語の場合は、上の3つの表現とは厳密には異なるが、話者たる主語が主語の気持ちを表す「感謝」を「伝える」あるいは「持っている」といった表現であり、主語の気持ちを「感謝」という言葉で直接的に伝える表現である。

(4) 仏語：Merci. (名詞)

また、次のブラジル・ポルトガル語の場合は、これらとは異なるが、使用されている受動分詞“obrigado/a”との主述関係は明白である。

(5) ブ・ポ：Obrigado/a. (分詞・形容詞)

“obrigado/a”は、考えられる元の構文の主格主語の補語であるが、日本語の「ありがとう」と同様、元の構文を想起するブラジル人は少ない。その点では、この表現も日本語と同様に感嘆詞的あるいは間投詞的な挨拶の表現になっていると考えていいだろう。

2) 構文上感謝する主体が述部の主語にならない場合

(1) 日本語：ありがとう (形容詞)

これらの表現に対して、日本語の表現では構文の主述関係がやや曖昧であり、考えられる元の構文を想起しても、構文的には「ありがとう」の主語は、話者たる私にはなり得ないことは既に述べた通りである。(cf II)。

おわりに

以上、日本語の感謝表現の「ありがとう」の表現構造とその特徴を明らかにすると同時に、日本語といくつかの言語における感謝の表現を対照比較して、それらの表現の意味的特徴や構文的特徴を考察してみた。

一般的な傾向としては、日本語の「有難う」の表現に代表されるように、直接的に「感謝する」と言う表現をしない傾向がある。これは、浮田、1994で述べた客観的表現の傾向と同じ特徴だと考えられる (cf 西原、1994)。それに対して、現代ギリシア語、英語や中

国語における感謝の表現では、「感謝する」と言う構文上主語の気持ちを直接的に述べる傾向があると言える。これも、浮田、1994で述べた主観的表現の特徴と同様の傾向であろう。ただ、ヨーロッパの言語でも仏語とブラジル・ポルトガル語における感謝の表現では、現代ギリシア語や英語とは異なる表現形式が使用されているが、日本語に比べて、構文的にも意味的にも主語（話者）の気持ちが直接的に述べられていると言える。ただ、ブラジル・ポルトガル語の感謝の表現“obrigado/a”は、語彙的にも構文的にもやや遠回しな表現だとも言える。

また、このような日本語の客観的で直接的でない表現が、意味的には相手の行為に最大の評価を与えるという大げさな誇張表現で、最大の感謝の気持ちを表明しようとしたものだということにも気が付く。このような誇張表現の傾向は、謝罪の表現「済みません」や別れるときに発話される「失礼しました」等にも見られる傾向である。ただ、私たちがこのような表現をそれほどの意味的重さを感じて発話しているかということ、そうではないのであり、そのあたりの日本人の物の考え方が国際的に理解されにくいと言われる由縁であろうか。誇張表現という面では、現代ギリシア語の“doxa to theo”「神に栄光を」という表現も挙げておかねばならないであろう。

表現構造の省略という面から見ると、最もよく使用される表現においては、日本語、ブラジル・ポルトガル語、仏語に限らず多くの言語で大きな省略が行われている。

参考文献

- 生越まり子、1994、「日朝対照研究」、『日本語学』No13、明治書院
- 浮田 三郎、1994、「挨拶表現に見られる日本的表現法—日本語、現代ギリシア語、英語中国語の挨拶表現を対照して—」、『広島大学留学生センター紀要』第4号
- 沖 裕子、1994、「方言談話にみる感謝表現の成立—発話受話行為の分析」、『日本語学』No13、明治書院
- 甲斐 睦朗、1994、「企業小説にみる感謝表現」、『日本語学』No13、明治書院
- 熊取谷哲夫、1988、「発話行為理論と談話行動から見た日本語の詫びと感謝」、『広島大学教育学部紀要第2部』37、223-234
- _____、1994、「発話行為としての感謝—適切条件、表現ストラテジー、談話機能—」、『日本語学』No13、明治書院
- 関本 至、1968、『現代ギリシア語文法』、泉屋書店
- 杉戸 清樹、1994、「お礼に何をしましょう？ —お礼の言語行動についての定型提携表現—」、『日本語学』No13、明治書院
- 中道真木男、土井 真美、1994、「日本語教育における感謝の扱い」『日本語学』、No13、明治書院
- 西原 鈴子、1994、「感謝に関する一考察」、『日本語学』No13、明治書院

- 藤原 浩史、1994、「平安和文の感謝表現」、『日本語学』No.13、明治書院
- 松浦 昭子、1983、「ありがたい（有難）」、『講座日本語の語彙』9、明治書院
- 三宅 和子、1992、「「感謝」と「詫び」にみるイギリス人とアメリカ人の言語行動」、荻野綱男『言語行動論報告』2、71-83
- _____、1994、「感謝の対照研究－日英対照研究－文化・社会を反映する言語行動－」、『日本語学』No.13、明治書院
- Dauzat, Albert; Dubois, Jean; Mitterand, Henri, 1964, “Dictionnaire Étymologique et Historique du Français” Larousse.
- Onions, C. T. (Ed.) 1966, “The Oxford Dictionary of English Etymology” Oxford, Clarendon Press.
- Wartburg, Walther von, 1968, “Dictionnaire Étymologique de la Langue Française” Presses Universitaires de France.